

私の履歴書

ふりがな	きむら かずのり	男
氏名	木村 和範	

(1) 中学までは森町

イカめしの森町で1948年に生まれ、中学校卒業までの15年間しか生活しなかったが、遠きありて思う「ふるさと」は「モリマチ」である。

高校からは親元を離れて函館に住んだ。地元の高校に入学させたのでは、家業の手伝いで勉強ができなくなるとの親心からであった。古文が好きで、中学が高校の国語教師になりたいと国文科を志望したが、「先生と名の付く職業はどのような職であろうとも就くことは断じて許さない」という父の反対に遭ったこと、3年生のとき政治経済を担当した東郷征二先生が社会への関心を呼び起こしてくれたことなどが重なって、目が奈良平安時代からに現代に向かい、社会科学系を目指すことにした。

(2) 新課程用の数学で合格をゲット

大学入試では1年限りの経過措置として、数学の問題に新課程用と旧課程用の2種類が用意された。新課程用の問題は旧課程にくらべて簡単だった。課程改訂の狭間に運良くラブレで合格することができた。所属学部の割り振りでも、これまた幸いに経済学部定員増初年度に当たり、希望する経済学部に移行することができた。

(3) 弓道が学業か

『統計学』(内海庫一郎・木村太郎・三浦信邦編、有斐閣、1966年)を教科書とする1年目対象の「統計学」は、当時本学経済学部教授であった高岡周夫先生が非常勤講師として担当された。指定教科書の筆頭編者が身近で教鞭をとっておられることを知ったので、講義を聴きに潜り込んだ。講義は変幻自在にして自由闊達。統計学を学びたいというよりは、内海ゼミに入りた一念で、経済学部を選択した。しかし、その思いはどこへやら、ますます弓道にのめり込んだ。就職を控えた4年目になり、このまま卒業してよいのだろうかと思い、内海先生に大学院への進学希望を伝えた。先生は少し困った顔をされたが、受験することになった。志を立てて入学するからには、しっかり勉強するようにと諭されたのは合格した後のことである。

(4) 大学院生活を支えたアルバイト

大学院の5年間は、日本育英会(現日本学生支援機構)の奨学金と札幌南高校での非常勤講師で糊口をしのいだ。進学を目前にした春休みに、教育実習[南高(定時制)]の指導教諭、宮丸吉衛先生から働いてみないかという電話を頂戴した。高校教員の免許を受けてはいるものの、社会科5科目(地理、日本史、世界史、倫理社会、政治経済)となると自信はなかった。しかし、進学後の生活を考えると思案の余地はなく、忸怩たるものを感じつつ、ありがたくお受けした。

(5) お世話になった先生方

1975年に本学経済学部の教員として採用された。この間、担当科目の追加や変更はあったが、来し方を振り返るとき、節目節目でお世話になった先生方のことが思い出される。

「オンチ」であった私を1年間ほとんど毎日放課後教室に残して、オルガン弾いて歌を教えてくださいました山口勝子先生(森小学校1年生のときの担任)、3年生になったら担任を山口先生に戻すように西山四郎校長先生に頼んでくださいという作文を寛い心で受け止められた瀬下啓子先生(2年生のときの担任)、職業に貴賤なしと言ってN田T子さんをいじめから守り、分け隔てなく友情をはぐくむことの尊さを教えてくれた辻光子先生(3年から6年までの担任)、新婚前後の時期に何人もの中学生に夜の自宅を無償で学習の場として提供し、指導してくださった相沢玄二先生(森中学校3年間の担任)、社会へと目を開いてくださった東郷征二先生、生活の糧を確保してくださった宮丸吉衛先生、統計学へと誘ってくださった高岡周夫先生、学部移行以来一貫して人として学者としてのあるべき範を垂れた内海庫一郎先生、本学への採用が決まったときに田中修経済学部長と高岡先生へのご挨拶に付き添ってくださった是永純弘先生。——この他にも多くの先生方からさまざまな局面で学恩とご厚誼を賜った。初めてお会いしたときのどの先生の年齢とくらべてみても、はるかにそれを越える年齢に達し、定年退職まであと10年余りとなった。恩師の教員としての「ふるまひ」とこれまでの我が身を見比べてみると、まさに汗顔の極みである。遅きに失するとのそりを受けけることは覚悟の上で、改めて教員の社会的使命を反芻しながら、その日が来るまで教壇に立ちたいと願っている。



キャンパス内でゼミ生と

略 歴	
1966年	私立函館ラ・サール高等学校卒業
1970年	北海道大学経済学部卒業
1975年	同大学院経済学研究科経済政策専攻博士課程退学

主 著

『標本調査法の生成と展開』(北海道大学図書刊行会[現北海道大学出版会]、2001年)

現在の研究テーマ

イタリアの統計理論

研究室の窓から

第3回目を迎えたこの企画、今号は小坂直人先生(産業総論)の研究内容を紹介したいと思います。



現在、私は「電気・ガス・水道・熱供給」など、いわゆる「公益事業」の産業特性を明らかにすることを研究課題として取り組んでいる。これら産業は、導線や導管などの供給設備ネットワークを必要とし、その供給する財は産業や家庭にとって必要不可欠なものとなっている。このため、従来、この種の財は自治体や国などの公的機関が直接供給するか、あるいは、民間企業が供給する場合は、公的機関による強い規制を受けることが一般的であった。近年、市場至上主義的な経済政策が主流となる状況において、こうした公益事業分野にあっても、規制緩和・自由化が強力に推進されてきている。したがって、現在の私の主要な関心は、一般の産業と明らかに異なるこれら公益事業を一般産業と同様に扱うことになる自由化措置の是非を検討することにある。

この検討過程において留意すべき点がいくつかある。

第1に、「官」あるいは「公的機関」の位置づけである。

市場至上主義によれば、市場における経済活動に対して国家政府はできるだけ介入しないことが理想とされ、「小さな政府」が最良と考えられている。膨大な国債累積に象徴される「財政危機」もあって、公務員定数の削減や給与引き下げが当然のごとく実行されようとしている。汚職や天下り問題など、日本の官僚制度の弊害は少なくない。したがって、その改革が必要なことは当然であるが、現政府のやり方は稚拙に過ぎる。たとえば、「耐震偽装問題」は構造計算書に直接関わった—建築士の資質だけの問題ではなく、建築基準法という国民の財産と安全を守るための最低限のルールを誰が最終的な責任を持って適用・監視するか、という社会制度の問題である。この問題の教訓は、本来、公的機関で行なうべきチェックを民間機関に委託する場合、民間機関の業務内容を公的機関が改めて監視するシステムが必要だという点にある。それゆえ、「公的機関」が最終責任を持つべき業務は委託すべきではなく、直接監視責任を持つシステムをつくるべきであろう。そうでなければ、監視システムの二重化が避けられないからである。同じ目的のために、民間と官の双方に類似の機関が構築されるのは社会的な無駄と言える。

官・公的機関＝悪玉、市場・民間＝善玉という構図は単純明快で分かりやすいが、その分、きり捨てられる部分が多いことに留意すべきなのである。とりわけ、そのことによって、官・公的機関が本来担うべき分野においても、官・公的機関の総退却が始まろうとし

ていることが懸念される。地域の図書館、美術館、博物館、劇場ホール等の文化施設の運営に当たって「指定管理者制度」による民間委託が強力に推し進められているが、その背後にこれら文化施設に対する無理解、それゆえ貧困な文化政策が存在することを見ることは容易であろう。

第2に、「公共性」の問題である。

ここ数年、社会人文科学の分野では公共性研究が非常に盛んである。それ自体は歓迎すべきことではあるが、その中身に気にかかる点がある。かつての日本で、公共性と言えば、国家・政府の有する「公的」なものの総称とも言うべき性質を指していると考えられてきた。すなわち、「お上の公共性」である。官・公的機関＝悪玉という図式も手伝ってか、この意味での公共性を主張する者は少なくなったようである。今日の主要な公共性理解は、官・公的機関と民間の間に、「公」でも「私」でもない「公共空間」が存在するというものに収斂しつつあるように思われる。もちろん、そこでのニュアンスや強調点は論者によって微妙に異なっており、定説らしきものはまだ存在しない。しかし、一面的な官・公的機関による「公」や、ひたすら私利私欲を追い求める「私」とは区別される空間に公共を位置づけようとしている点では、共通のフレームが形成されつつあるように思われる。

第3に、公共が以上のようなフレームで展開可能だとして、私の研究対象である公益事業はこのフレームにどのように位置づけが可能であろうか。

最初に述べた、公益事業を自由化することの是非を検討するという私の現時点の関心事は、このフレーム上の中心に公益事業が位置付けられるのではないかと、という仮説の検証につながっている。この作業は、まだ開始したばかりであり、いつ終わるとも言えない先の長い取り組みではある。ただ、少なくとも現時点で次の点は言えるように思う。「企業価値の増強、すなわち投資家にとっての収益の増大の場が公共空間である」という田中直毅の公共性には私は与しない。公共性はあくまでも地域共同の場におけるマイノリティの利益に収斂するものでなければならないというのが私の主張の要点である。

研究生活の残された期間、ゼミや授業、学会など与えられた場において上記課題達成のため最大限努力したいと願っている。

econ. (エコノ) No.13 発行：北海学園大学経済学部 2006・春
〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40 TEL.011-841-1161(代) FAX.011-824-7729
HP.http://www.econ.hokkai-s-u.ac.jp e-mail:admin-ec@econ.hokkai-s-u.ac.jp



北海学園大学経済学部報 エコノ No.13

私の大学4年間

この春卒業を迎えた経済学部生2名に、大学生生活4年間でふりかえってもらいました。2005年度卒業生の皆さん、どんな4年間を過ごしたでしょうか？ 2006年度新入生の皆さん、不安も多いと思いますが、先輩の経験を大いに参考に、充実した学生生活を送ってください！



経済学部経済学科

本間 史乃

1年目

念願の大学に入り充実した大学生活を送るためにサークルに入ろうと思った私は、サークルPR大会で説明してくれた先輩のやさしさと姿勢に惹かれて、弓道部に入部しました。弓道部はなにもかも新鮮で、たくさんの仲間ができ、とても楽しい毎日でした。もちろん上関係の厳しさと練習のつらさ、朝練による午後の授業中の眠気に悩みましたし、上達の遅さが悔しく弱気にもなりましたが、はじめて矢が的に当たったときは、そんなつらさを忘れるくらい嬉しかったです。他大学との交流試合もよい経験でした。

1年の後期になると先輩から、弓道部とは別に体育会本部の仕事をするめられ、活動の場がより広がることと思い、体育会本部に入りました。

授業では1年次には専門科目が少ないため、中国語やコミュニケーション論など共通科目を多く履修しました。とうじ開講されていた「経済学概論」ではグループごとに発表するなどして経済の基礎的知識が身についたと思います。

[1年次の修得単位：48単位]

2年目

2年生になると、まずゼミ選択がありました。日韓共催のサッカーWカップで韓国に興味をもった私は、韓国の歴史や社会を知らないことに気づき、韓国社会経済論のゼミをとることにしました。ゼミで学んだのは韓国や北朝鮮の歴史や日本との関係など、それまで知らなかったことばかりで、表面的でなく深い理解が得られたと思います。またゼミと並行して韓国語も教えていただき、楽しかったです。

ゼミや体育会本部の活動にくわえて、もともと目指していた公務員の勉強力を入れるために、悩んだ末に弓道部は前期でやめることにしました。つらい決断でしたが、不器用な自分がほんとうにやるべきことは何かを重視した結果です。つらい時期をささえてくれた仲間にはいまでも感謝しています。公務員対策は早めに取りくんだほうがよいと思い、学内の公務員講座を受講しました。

[2年次の修得単位：48単位]

3年目

3年次のゼミは3年生と新2年生との合同になりましたが、人数が多いせいが多様な意見が生まれ、より活発なゼミになったと感じました。経ゼミ対抗のソフトボール大会に向けた練習や、大会での一喜一憂も、楽しい思い出になりました。

体育会本部では渉外次長になり、仕事も増えました。渉外は毎月の体育館や体育棟施設の使用割当などを決めるのですが、会議が3時間におよぶこともあり、それをでも自分なりに効率のよい方法を考え、各部と連携し、徐々に会議を円滑にすめられるようになりました。この経験のおかげで仕事の処理能力や物事の調整能力が身についたようにも思います。さらに自治会執行部や文化協議会本部など他団体の方々と接する機会もあり、たいへんでしたが多くの経験ができたと思います。

公務員勉強は、6月から公務員予備校の休日コースを受け、平日は図書館で勉強しました。自宅であまり集中できない私も、同じ公務員志望の人がいる図書館や予備校ではよい刺激が得られ、勉強に打ちこめました。

[3年次の修得単位：48単位]

4年目

卒業に必要な単位は3年間でとれたので、4年生のときは公務員試験に全力投球しました。いっぽう体育会本部では、より責任ある副幹事長になりました。またこの年は、毎年開催される対東北学院大学定期戦の主幹の年でもあり、その準備で大忙しでした。

しかし公務員試験は、5月6月7月といくつもの試験を受けたものの、すべて不合格。夏ごろには公務員浪人も考えましたが、まだ9月に市町村と郵政職員の試験があったので、悔いの残らないように、この2つの試験に全力を傾けよう決心しました。

そして11月、郵政公社から念願の合格通知が来ました。一時はもうだめか思っていたぶん喜びもひとしおで、あきらめずに努力してほんとうによかったと思いました。いままで支えてきてくれたたくさんの方々への感謝の気持ちでいっぱいでした。

[4年次の修得単位：0]

4月からは私も社会人としてあらたなステージが上がります。この大学で過ごした4年間のさまざまな出来事や思いは、これからの生活でも大きな力になることでしょう。今後とも、なにこともあきらめないチャレンジ精神で、自分が納得のゆくまで精一杯努力してゆきたいと思います。



経済学部経済学科

丸山 史康

新入生の皆さん、こんにちは。私の4年間の大学生活を少しでも紹介させていただきます。

1年生のときは経済のことはもちろん、大学のことや友達ができるのかもわからず、不安でいっぱいでした。しかしそれは当たり前のことです。大学での友達作りは、サークルに入ったり、授業が一緒の人に話しかけたりすれば、向こうも友達を探しているはずですからすぐに大勢できます。学業の面では私は恥ずかしながら20単位しかとれませんでしたが、みなさんは1、2年の時にしっかり単位を取っておいの方が良いですよ。

2年生では経済の専門科目が増え、少し講義がおもしろくなり、単位も40単位取ることができました。そして私の転機は3年生の時です。それまでアルバイトの先輩方の就職活動や、社会人に向けての準備を間近で見っていましたし、店の経営について店長やマネージャーとよく話をするようにもなり、はやく社会に出て働きたいと思い始めました。そこで私は「今自分

は何をすべきか」を自問自答しました。考えた末、自分の就職の選択肢を増やすために公務員試験の勉強を始めました。ちなみに3年生の履修単位は最大の48でした。このときはもう経済の虜でした。

4年生のときは単位が残っていたので、学校と公務員試験勉強の二足のわらじを履いた状態でした。これは本当に悪い例で、単位は早めに取っておいたほうがベターです。しかし私はあえて4年次も48単位履修し、講義にもほぼすべて出席していました。就職活動で試験を受けられなかった科目はありますが、それでも自分で学んだ知識は決して消えません。自分にとって財産であり、努力したことが自分の自信に繋がりました。わからないことを見つけ、どこをどうやって、何を使って調べればわかるのだろうか？ ということを意識しながら講義を受けていました。みなさんも講義を聴くときには、「何故こうなるんだろう」という小さな疑問をメモして、自分で調べたり、先生に聞いてみたりしてください。経済の動きの理由を知ればきっと講義もおもしろくなりますよ。

さて、これだけは言えます。大学では、やりたいことをやる、そしてやりたくないことも努力してとりあえずやってみる、その上で改めて何が必要かを自分の見聞を持って判断する。私は北海学園大学に入学して本当に良かったです。皆さんもたくさん遊んで、たくさん勉強して自分の見聞を広げてみてください。きっと世の中をもっと知りたくなくて、学ぶことが楽しくなってきますよ。

経済学部での4年間

大学で学ぶことの意義は、いうまでもなく、幅広い教養を身につけること、自分の専攻する学問分野についての知識を深めることにあります。したがって、就職活動をする、あるいは就職活動のための準備をすることだけが、大学生活のすべてではないと思います。とはいえ、みなさんが選んだ（あるいは今後選ぶかもしれない）「小学校→中学校→高校→大学→社会」という人生の流れのなかで、高校から大学へ進学された（これからされる）ときに、将来自分が就きたい職業に関係したことが学べる学部・学科を選択した（する）はずですが、したがって、就職という人生の中間的なひとつの目標を達成するために、大学の4年間をどう過ごすかという考え方も、かつして否定されるものではないと思います。くり返しますが大学は「就職予備校」では決してありませんが、ここではひとまず、この考え方を肯定的にみることにしましょう。

どんなことにも当てはまることですが、勝利を収めるためには相手の出方を知ることが重要です。ここでこの話題でいえば、自分が望む就職先に採用されるためには、企業が採用面接を行う際に重視している点はどこなのかを知る必要があります。そして、次の段階で

は、それらのポイントで高く評価されるような人間へと成長できるよう努力することが求められます。さまざまな調査の結果をみてみると、企業は「協調性や行動力などの社会人としての基礎力の有無」「自己PRが十分にできるか」「質問でしっかりと受け答えができるか」「企業研究をしっかり行っているか」などを採用面接の際の大きなポイントとしているようです。したがって、このような能力を身につけられるよう、さまざまな知識の習得、経験の積み重ねが大切になってきます。こうした能力を育成する機会を与え、それを手助けするのが大学、そしてわれわれ教員の大きな仕事だと思います。たとえば本誌前月号（第12号）で特集したゼミナール（通称、ゼミ）では、丁寧な個人指導が行われており、上で述べたような企業が求める能力を高めるには最適な場であるといえます。こうしたチャンスをうまく活用することが、夢をかなえる第一歩となることでしょう。



就職活動は年々早期化しており、近年では3年生の終わりごろから始まっています。入学以降、それほど多くの時間があるわけではないので、それまでにいかに

求められます。ゼミ活動を通じて得た成果を発表することは、その力を養成するよい経験となることでしょう。先ほどふれた地域研修が実施された後は、「地域研修報告会」が開催されます。また、夏季に開催される「東北・北海道学生経済ゼミナール大会（通称「北プロ大会」）、年末に開催される「日本学生経済ゼミナール大会（全国大会）」へ出場するゼミもあります。他大学のゼミの学生との間で建設的な意見が交換されます。このようなさまざまな経験を通じて、「目標の達成のために努力を惜しまない」という姿勢を身につけてほしいと思います。

経済学部講演会



毎年開催されている講演会としては、経済学部の教員数人が各テーマのもとに、市民の皆さんを対象として行う「市民公開講座」がありますが、学生の皆さんを主な対象とする講演会も開かれています。外国の大学の教員や民間企業の方による講演は、毎年好評を得ています。普段の授業で聞く内容とは一味違う新しい発見がそこにはあります。知識の引き出しを増やし、物事に対するさまざまな見方を学ぶ絶好の機会です。

就職活動の開始



以前に比べ、業界研究会や企業セミナーがかなり早い段階からスタートしています。札幌ドームなど大きな会場で合同説明会が開催されていますが、本学内でも企業別の説明会が数多く開かれています（茶色かった髪の毛を黒く染め直し、慣れないスーツに身を包む学生の姿は、実に微笑ましいものです。就職試験の時には、成績表の提出が求められます。近年では学業成績を重視する企業が増えてきていると聞きます。やはり入学時点から競争は始まっているのです。

- 4月：入学式、教務ガイダンス、履修登録、講義開始
- 6月：ゼミ対抗ソフトボール大会
- 7月：前期定期試験
- 8月：学生討論大会、東北・北海道学生経済ゼミナール大会、地域研修、インターンシップ研修
- 10月：市民公開講座
- 11月：経済学部講演会
- 12月：地域研修報告会、日本学生経済ゼミナール大会（全国大会）
- 1月：後期定期試験
- 2月ごろ：就職活動の開始（北海道地区）
- 3月：卒業式（2005年度の場合）

卒業を目前にした4年生に聞いてみました

★あなたの学生生活は 四年生で単位を残さないようにするために、とにかく単位を取ることを頑張っていました。そして、四年間で沢山の出会い、学ぶことが出来たので、自分としてはとても成長することが出来たと思います。

★それを一言にすると **積小為大** (あぶさん)

★あなたの学生生活は 大学は高校とは違ってクラスがなく、友人を作る場が少なかったが、ゼミで高校との時と同じような活動ができ、友達が増えて大学生活の中で一番良かったと思います。

★それを一言にすると **学園は大学っぽくなかった。** (山崎貴仁)

★あなたの学生生活は 「自分で考えて決断すること」を優先してきた。その結果が良いか悪いかはさほど問題ではない。卒業2カ月前、何かを掴み、「好きなこと」は時間を超越するものだを知った。終わりはない。また、はじまりました。

★それを一言にすると **すぐに役に立たないものほど価値がある。** (姐さん)

★あなたの学生生活は 入学当初は希望通りの進路で入った学校ではなかったから散々な気分だった。単位の方も取らなかつた。そんな感じだったが、途中から学校にも慣れ講義にも出るようになって、いろんな勉強ができ、見聞を広げることが出来たから、それなりな学生生活が送れたと思う。

★それを一言にすると **八七起転** (水島大輔)

★あなたの学生生活は やりたい事を自分で探して実行し、またゼミや英会話といった新しい事にもチャレンジし、その事を通して新しい自分を発見したり、飲み会等で友人の大切さを再確認する事が出来たととても意義ある時間でした。

★それを一言にすると **財産** (小林義和)

★あなたの学生生活は アルバイトすること。授業はサガらないこと。ゼミは積極的に参加すること。サークルに入ること。人との縁を大切にすること。二部だからってあきらめないこと。はしゃいだり後悔したり色々だったけど楽しい大学生活でした。

★それを一言にすると **光陰矢の如し** (佐藤珠実)

★あなたの学生生活は 個性あふれる最高の友達、先生に恵まれてとても楽しく学生生活を過ごせました。年代、国籍を超えたあらゆる人達と交流し、

★それを一言にすると **いろいろな体験をすることが出来て本当に良かったです。**

★それを一言にすると **大満足!!** (ドナ)

★あなたの学生生活は 私の学生生活は、今振り返るとアルバイトと部活に一生懸命でした。授業もほとんど休まず、学校、アルバイト、部活という毎日にはハードで大変だったけど、大学生のうちにはしかできない体験だから、

★それを一言にすると **とっても充実した毎日を過ごせたとおもいます。**

★それを一言にすると **満足!** (M.T)

★あなたの学生生活は 友人、学食、図書館、そして受講にと趣味の如く、学校に行くことの楽しい日々であった。

★それを一言にすると **社会人、学生時代にブラボ!** (rakh)

★あなたの学生生活は 苦しみから得られた幸福な四年間でした。講義時間・レポートを作成するまでの苦悩・睡眠との闘い・何度間違った選択をしたかと思いつながら友人の励ましに支えられた。社会人を受け入れてくれた学園に感謝します。

★それを一言にすると **学園に感謝!** (森山洋子)

★あなたの学生生活は 短大を卒業し就職後、10年以上経って編入した。私にとって二度目の学生生活。5時過ぎまで勤務後の授業のため私にヘトヘト状態。でもさぼることなく、居眠り少なく、授業を受講できました。素晴らしい先生や様々な年代の同級生…色々な出会いがあり刺激も受けました。今後も一期一会という言葉を大切に、学園で学んだことを活かし、過ごしていきたいと思えます。また学生生活に協力してくれた家族や職場の方にも感謝の気持ちでいっぱいです。

★それを一言にすると **祝・卒業!** (大泉宏子)

★あなたの学生生活は 学校行ってバイトして一日が終わる。あつという間だったけど、色々楽しかった4年間。

★それを一言にすると **大学生サイコー!** (T.K)

★あなたの学生生活は 私の学生生活はロシア語で変わった! 大学に入学し、今までやったことのないことに挑戦しようと考え、第二外国語でロシア語をとりました。そして、そのことを通じて様々な方と知り合いになることができたし、異国の文化に触れることもできました。何かを少しがんばってみることで、とても楽しい学生生活を送ることができました。

★それを一言にすると **ロシア語** (森井えりな)

★あなたの学生生活は よく笑いよく遊び度度に勉強は充実しすぎてた。と思えると思いつ中、こんな成長できたことに感謝す!

★それを一言にすると **毎日祭り!** (M.I)

★あなたの学生生活は 私にとつての学生生活は新たな自己発見の場でした。大学では高校までの決められた枠での生活とは異なる、自由の中における規制が決断力の向上を促進し、社会に出ても動じる事無く過ごせる自分を見てきたと自負しております。

★それを一言にすると **自己発見の場です!** (西野(大))

★あなたの学生生活は 色々な事を探して実行し、またゼミや英会話といった新しい事にもチャレンジし、その事を通して新しい自分を発見したり、飲み会等で友人の大切さを再確認する事が出来たととても意義ある時間でした。

★それを一言にすると **動いた者勝ち?!** (北川あかね)

★あなたの学生生活は 私の学生生活は、今振り返るとアルバイトと部活に一生懸命でした。授業もほとんど休まず、学校、アルバイト、部活という毎日にはハードで大変だったけど、大学生のうちにはしかできない体験だから、

★それを一言にすると **飲んだ→太った** (おっさん☆)

★あなたの学生生活は この4年間は充実してました。ちゃんと真面目に単位取ったし、就職決まったし、楽しくバイトもしたし、旅行行っだし、たくさん飲んだし(´ー´)

★それを一言にすると **ありがと。** (hiro)

★あなたの学生生活は 就職活動の時に「どんな勉強したのか」とか聞かれた。

★それを一言にすると **もっと勉強しておけば良かった。** (高野)

★あなたの学生生活は 私の学生生活はロシア語で変わった! 大学に入学し、今までやったことのないことに挑戦しようと考え、第二外国語でロシア語をとりました。そして、そのことを通じて様々な方と知り合いになることができたし、異国の文化に触れることもできました。何かを少しがんばってみることで、とても楽しい学生生活を送ることができました。

★それを一言にすると **ロシア語** (森井えりな)